

特集

# それ、ごみですか？

私たちの生活と密接に関わりがある「ごみ」。捨ててしまえばごみですが、分別すれば資源として再利用できるものもたくさんあります。今回は岡垣町のごみの現状を知り、ごみの減量化を考えます。

問い合わせ 住民環境課



①

まだ食べられるのに  
捨てられる「食品ロス」

「食品ロス」という言葉を聞いたことはありませんか。これは家庭や飲食店などで、食べられるのに捨てられてしまう食品を指す言葉です。国によると、平成27年度の日本の食品ロスは約646万トン。この数字は世界全体の食料援助量の約2倍で、国民全員が毎日ご飯茶碗1杯分の食品を捨てている計算になります。

食品ロスの原因は

食べ残しや買い過ぎ

飲食店などで食品ロスが発生する主な原因は食べ残し。特に野菜や穀類などが多くなっています。また、家庭では鮮度の低下や腐敗、消費期限切れなどを理由に、一度も調理されずに捨てられることもあります。さらに野菜の皮むきや肉の脂身などを取り除く際、食べられる部分まで取り除いてしまうことも食品ロスの原因になっています。

買い過ぎた食材や注文し過ぎた料理などは、捨てるとごみになってしまいます。食品ロスを減らすためには、家庭では食べ切れる分だけの食材を購入し、飲食店では必要な

量だけ注文するなどの意識付けが大切です。

資源は豊富に

あるわけではない

プラスチックや金属、紙類などさまざまな種類があるごみ。その原料の多くは、海外からの輸入に頼っています。これらの資源には限りがあり、いつまでも豊富にあるわけではありません。

限りある資源を有効に無駄なく使うためには、物をできるだけ繰り返し使ったり、再利用された商品を購入したりすることが大切です。

ごみは遠賀郡・中間市が  
一体となって処分している

皆さんが捨てたごみは、それぞれの自治体が処理しなければなりません。岡垣町は、遠賀郡4町と中間市で遠賀・中間地域広域行政事務組合を立ち上げて処理しています。

ごみの行き先は2カ所。プラスチック製容器包装やビンカン、ペットボトル、紙パック、食品トレイは中間市にある中間・遠賀リサイクルプラザに集められ、表1のとおり再利用されます。そのほかのごみは糠塚区にある遠賀・中間リレーセンターに搬入。燃



①燃えるごみは遠賀・中間リレーセンターに搬入。収集車からごみを降ろすときは生ごみの水分も大量に流れ落ちる②プラスチック製容器包装に異物が混入していないか手作業で確認する職員③プラスチック製容器包装に混入していた異物の山④ピンカンはクレーンを使って選別ラインへ⑤アルミ缶などは圧縮機で固めてリサイクル業者へ ※①は遠賀・中間リレーセンター、②～⑤は中間・遠賀リサイクルプラザで撮影



遠賀・中間地域広域行政事務組合  
業務第1課業務係  
係長 園田高広さん

## ごみの減量は 水切りや分別から

平成29年度に岡垣町の一般家庭から出されたごみは、燃えるごみ約5,100t、燃えないごみ192t、粗大ごみ343t、ピンカン270t、ペットボトルなどが60t、プラスチック製容器包装が150tでした。燃えるごみの半分を占めるのは生ごみ。そのうち約80%が水分なので、生ごみの焼却は、無駄な水分を燃やしていることとなります。

もし各家庭が毎日生ごみの水分を大きじ2杯分(30g)しぼると、町内の生ごみを年間150t減らすことができます。また、紙類を地域の資源物回収などに出したり、プラスチック製容器包装などをきちんと分別したりすると、資源として再利用することができます。一人ひとりが積極的に取り組み、ごみを減らしていきましょう。遠賀・中間地域広域行政事務組合では、ごみを処理する工程を見学することができます。ごみの減量化を身近にとらえるためにも、ぜひ一度見に来てください。

資源は限られているから  
リサイクルが必要——。

表1 再利用されるもの

ごみの種類	再利用後の製品など
プラスチック製容器包装、食品トレイ	プランター
ピンカン	鉄、アルミ、ビン
ペットボトル	制服、卵パック
紙パック	トイレトペーパー
紙類	再生紙

集められた燃えるごみの袋を見ると、ペットボトルやプラスチック製容器包装、紙類など、資源として再利用できるものが混ざっていることがあります。燃えるごみとして出さずに分別すれば、再利用できるだけでなく、焼却費用や焼却時に発生する二酸化炭素の排出量を抑えることができます。

一人ひとりの分別が  
ごみと資源の分かれ道

燃えないごみと粗大ごみは細かくして資源にできるものや燃えるものに分けられ、燃えるごみは北九州市に運ばれて焼却処分されます。

# 小さなこと、できることから実践しよう

私たち一人ひとりの小さな積み重ねで、ごみの量を減らすことができます。家計にも環境にも優しく、誰でも簡単にできるごみの減らし方を紹介します。

## 家庭から出る 生ごみを減らそう

Interview

ダンボールコンポストアドバイザー 本田トモ子さん

### 楽しく野菜が育てられます

ダンボールコンポストは腐敗臭がなく、生ごみの水分をしぼる手間もかからないので、誰でも簡単に取り組みます。作ったたい肥で育てた花は色がきれいで、野菜もおいしくなるので、作る喜びがとて大きくなります。そして、一番驚いたのは3カ月で生ごみが50kg減ったことです。燃えるごみを出す回数が週2回から1回になり、袋のサイズも大から中に変りました。楽しくごみを減らせるコンポストは、とても魅力的です。ベランダなどの限られたスペースでも簡単に取り組めるので、皆さんも始めてみてください。



▲もみ殻などの基材を入れたダンボールに生ごみを投入して毎日かき混ぜ、完成したたい肥を使って野菜を育てています

### 生ごみをたい肥化するものの購入を町が支援します

**対象** 電動生ごみ処理機、コンポスト類、発酵促進剤

**補助額** 費用の2分の1  
※上限2万円

**申し込み** 印鑑、振り込む口座がわかるもの、領収書、商品のカタログを持って住民環境課へ

【役場でも販売しています】

●コンポスト類

・屋外用(大) = 5,600円、(小) = 5,100円

・屋内用 = 2,600円

・ダンボールコンポスト一式 = 2,270円※ばら売り可

●発酵促進剤

・ネオ豊稷元 = 700円

・ぼかし = 300円

生ごみの減量は  
使い切りと水切り

日ごろから食材に必要な分だけ購入し、最後まで使い切るようにすると生ごみを減らすことができます。三角コーナーや水切りネットなどで水を切ることも効果的です。

生ごみをたい肥にしよう

生ごみは、コンポストを使って微生物の力で分解すると、たい肥として使えるようになります。中でもダンボールコンポストは、場所を取らずに簡単に取り組める優れたもの。生ごみの減量はもちろん、ごみ袋の節約につながり、家計の負担を減らすこともできます。

3010運動に取り組みよう

3010運動は、宴会時の食べ残しを減らす取り組みです。宴会開始から30分間と終了10分前は自分の席で料理を楽しみ、食品ロスを減らすことを目的としています。

職場や知人との宴会では、一人ひとりが「もったいない」という意識を持って3010運動に取り組み、おいしい料理を残さず楽しみましょう。

# プラスチックなどは きちんと分別を

## 正しく分けよう プラスチック製容器包装

商品を包んでいるプラスチック製の袋や液体のボトル、カップ類などには「プラマーク」が付いています。マークがなくとも、くだものが入っているネットやレジ袋、食品トレイなどはプラスチック製容器包装です。プラスチック製品として再利用できるため、きちんと分別してください。

## マイバッグを使って

## レジ袋を減らそう

買い物するときは、レジ袋をもらわずマイバッグを使いましょう。レジ袋を減らすと、袋の原料である石油資源の消費量や、製造過程などで発生する二酸化炭素の量を抑えることができます。

正しい分別や不要なもの削減などに取り組み、みんなでごみを減らしましょう。

## プラスチック製容器包装の分別のポイント



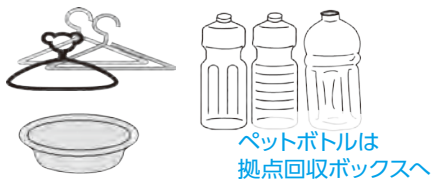
- ◆プラマークを確認する
- ◆中身は使い切り、汚れているものは洗って出す
- ◆汚れが落ちないものは燃えるごみとして出す
- ◆容器包装はレジ袋などに入れず、指定ごみ袋に直接入れる

### ○ プラスチック製容器包装



### ✕ そうでないもの

素材はプラスチックでも、それ自体が製品となっているおもちゃやバケツなどは燃えるごみです。



## 拠点回収ボックスを利用してください



回収するもの	回収場所
食品トレイ、ペットボトル、紙パック、乾電池	役場、中央・東部・西部公民館、スーパー、コンビニ など
使用済み食用油※ペットボトルに入れてください。	中央・東部・西部公民館、イオンスーパーセンター岡垣店
古着※汚れを取ったもの	中央・東部公民館
デジタルカメラ・携帯電話・電卓・小型ゲーム機・充電器などの小型家電※サイズは縦25cm×横15cmまで	役場・東部公民館

### 「都市鉱山からつくる!みんなのメダルプロジェクト」に岡垣町も参加しています

2020年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピック競技大会の入賞メダルに、不要になった小型家電に含まれるリサイクル材が活用されることになりました。東京2020組織委員会が行うこの取り組みに岡垣町も参加し、皆さんから回収した小型家電を提供します。